

令和5年度第1回前橋市総合教育会議 会議録

日 時 令和5年7月12日（水） 午後3時30分から午後4時34分まで

場 所 議会棟6階第2委員会室

(市長)

山 本 龍

(教育委員会)

教 育 長	吉 川 真由美	教育長職務代理者	奈 良 知 彦
委 員	畠 山 正文	委 員	渡 辺 照 子
委 員	木 村 素 子		

(事務局)

教 育 次 長	片 貝 伸 生	指 導 担 当 次 長	金 井 幸 光
総 務 課 長	高 橋 雅 人	教 育 施 設 課 長	木 村 一 弥
文化財保護課長	神 宮 聡	学務管理課長教職員係長	織田澤 信 司
学校教育課長	田 村 裕 之	前橋高等学校事務長	藤 井 義 嗣
前橋高等学校長	高 野 裕 史	生涯学習課長	佐 藤 由美子
教育支援課長	内 山 崇	図 書 館 長	齋 藤 明 子
未来創造部長	細 谷 精 一	政 策 推 進 課 長	宇 次 明

教育次長 これより令和5年度第1回前橋市総合教育会議を開会いたします。
本日、進行を務めます前橋市教育委員会教育次長の片貝でございます。
よろしく願いいたします。
開会にあたりまして、山本市長からごあいさつを頂戴いたします。

市長 奈良委員が市立前橋の校長になって、校長を引退されました。長く
いただいた奈良イズムが、何か途中で段々となくなってきました。それを奈良委員がラストチャンスだろうということで、新しく高野校長を招聘して、こうして説明を受けることになりました。

その当時から市立船橋くらいになるだろうという奈良委員の話でした。そのためには、思い切った市前改革が必要ということはずっと言われてきました。それが高野校長の下でスタートすることに、僕は期待しているし、きっと皆さんもそう思っているんじゃないかと思います。今日は、そのための時間に集中したいと思います。

それに合わせて、議会の委員会室をお借りして、議員の方も傍聴にいらっしゃっていただき、感謝申し上げたいと存じます。

今日、マンゴーが、市立前橋に台南市長さんから届きました。市立前橋の子供たちが、素晴らしい演奏をしたからです。台湾の歌まで覚えていただき、演奏して歌唱までしていただいたことに、感動します。そういった感動を与えていただいていることに、お礼申し上げます。自由な議論の中で、何らかの形を皆さんと作っていきたいと思います。

教育次長 ありがとうございます。
続きまして、吉川教育長からごあいさつをお願いいたします。

教育長 市長さんの話にもありましたが、奈良委員さんが教育委員としてこの席にいらして、高野先生という新しい校長先生をお迎えしました。新しいスタートが切れるこの年に、総合教育会議を市長さんと一緒に、市前の課題・今後の魅力化について話すことができる機会をいただき、大変ありがたく思います。限られた時間ではありますが、前橋市唯一の市立の高校であります「イチマエの魅力化・特色化」について、皆さんと話し合っていきたいと思います。どうかよろしくお願いいたします。

教育次長 ありがとうございます。
議題に入らせていただきますが、これ以降の進行につきましては、吉川教育長に進行をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

教育長 それでは 議題「イチマエの取組」について、まず議題の趣旨につき

まして、指導担当次長から説明をさせていただきます。

金井指導担当次長、お願いいたします。

指導担当次長

大変お世話になります。

本日の総合教育会議の議題は、「イチマエの取組 魅力化・特色化実現に向けた教育活動の充実」です。前橋市立前橋高等学校、通称「イチマエ」は、前橋市唯一の市立高校であり前橋市民に長く愛され続けている学校です。そして、その「イチマエ」に集う高校生の持つ無限の可能性、瞳の輝きは何物にも代え難く、前橋市の大きな希望とも言えます。

今日は、その「イチマエ」の取組について、今年度より着任した、素晴らしい教育理念・情熱・実践力をお持ちの高野裕史校長先生から熱くご説明いただきます。その後、魅力化・特色化実現に向けた教育活動の充実という視点で、「イチマエ」の生徒たちの可能性をさらに広げるには、瞳がさらに輝く学校になるには、どんな方法が考えられるか、皆さんから夢と希望に満ちたお知恵をいただければと思います。やりたいことが見つけられる市立前橋高校というキーワードも軸に、お考えいただければ幸いです。

前橋の教育が目指す人間像は、「多様な人と協働し、主体的・創造的に社会を創る人」。前橋ビジョン「めぶく」のキーコンセプトは、「良いものが育つまち」。そんな、人の成長、育みを大切にする前橋市の市立高校、「イチマエ」の、さらなる魅力化・特色化について、示唆に富む貴重なご意見をいただければ大変ありがたいです。どうぞよろしくお願いいたします。

教 育 長

それでは、議題「イチマエの取組」について、市立前橋高校校長から説明をお願いいたします。

前橋高等学校校長

皆さんこんにちは。市立前橋高校校長の高野と申します。本日は、市立前橋の取組について発表する場を設けていただきまして、大変ありがとうございます。発表の前に、簡単に自己紹介をさせていただきます。私は校長ですが、体育の教員です。なぜ体育の教員を志したかと言いますと、県立前橋高校を卒業しましたが、高校時代に全然勉強が出来ませんでした。高校2年生の時に、群馬県で赤城国体が開催されました。体も大きかったのも、水泳部の監督から前橋商業高校に水球部があるから部活はそちらでやったらどうかと話があり、勉強は前橋高校、部活は前橋商業高校という形で3年間を過ごしました。地元で行われた国体で優勝することもできましたし、次の年の国体でも優勝することができました。大学は、筑波大学に進学して、水球の方は続けました。大学2年から全日本のナショナルチームに入り、6年間選手として活動しました。その後、水球はマイナースポーツで、就職する場所がほとんどなく、地

元に帰り、地元で貢献しようと思い、教員を志して群馬県立高校の教員になりました。採用されてから転機が訪れ、2校目に前橋商業高校に赴任して、そこでここにいる奈良知彦先生に出会いました。教員として、色々な事を教えていただき、その中で、将来2人で理想の高校を作れたらいいなど、先生とよく話をしました。先生の教育理念や実行力、そういったものすべて私の見本となります。前橋商業高校では、好きな水球をたくさんやり、監督としてもインターハイで優勝させることもできました。本当に良いキャリアを奈良先生の下で積ませていただきました。県教育委員会スポーツ振興課、高体連理事長等を経まして、今、市立前橋高校にお世話になっています。運動をやっていたので、理想が運動部に偏ったりとかすることが多々あると思います。そういった所は、終わった後に指摘していただき、質問をしていただければと思います。よろしくお願いします。

それでは、前橋市立前橋高校の取組として、魅力化・特色化実現に向けた教育活動の充実についてお話しさせていただきます。

本題に入る前ですが、6月2日、3日に行われたけやき祭、文化祭が開催されました。これは、開会行事の様子です。全生徒が壁画を作り、ころんとイチマルくんとで写真を撮ったところです。コロナが5類に引き下げられてから、初めての本格的な学校行事でした。コロナ禍以前の制限がない形で実施したところ、2日間合計で約3千人近い方が来校し、大変盛り上がりました。生き生きと、笑顔で楽しく参加している生徒たちを見て、改めて、高校生のパワー、学校っていいなと思いました。

また、6月11日に吹奏楽部の定期演奏会を実施したところ、たくさんの方々の参加をいただき、大変盛り上がりました。本日この会議に出席されている方の中にも、ご来場いただいた方がいらっしゃいます。あらためて御礼申し上げます。

それでは始めさせていただきます。お手元のA3版の資料と併せてご覧ください。まず、本校の校訓です。「進取」は自ら進んで学習や特別活動に取り組み、個性と実力を伸ばして、自己実現を図る。「自律」は自ら自己の行為を律して、節度ある堅実な生活態度を育て、人格の形成を期す。「創造」は自ら培った知性・品性・感性を基に、チャレンジ精神をもって新たなものを創り出すこととなります。

学校教育目標は、前橋市の教育が目指す人間像である「多様な人と協働しながら、主体的・創造的に社会を創る人を育成する」がベースとなっています。本校では「真に社会に貢献できる自立した社会人の育成」を掲げています。そのために、「社会性を身に付け、主体的、創造的に行動できる生徒の育成」「確かな学力の育成」「個性が磨ける学校・自己有用感を育む学校づくり」を実践します。

社会常識を身に付け、当たり前が当たり前でできる生徒、確か

な学力とこれからの社会でよりよく生き抜くための力を身に付けた生徒の育成を目指しています。

A3版の資料の上方にありますスクールミッションについては、先ほど述べた前橋市の教育が目指す人間像になります。本校は、前橋市唯一の市立高校として充実した教育環境と市内の人的・物的資源を生かした教育活動を通して、個性を伸ばし、やりたいことを見つけることができる。学習や部活動などに他者と協働して取り組むことを通して、主体的に学ぶ力、探究する力、自らの将来を切り拓く力や挑戦する力を伸ばすことができるというミッションになっています。ここで掲げているスクールポリシーは、本校で策定したものになります。

生徒育成方針であるグラデュエーション・ポリシーは1～6までの「6つの力」を身に付けて、確かな学力のもと、自らの役割をしっかりと果たし、地域社会を支える社会人としての力を身に付けるとなっています。

教育課程編成・実施方針であるカリキュラム・ポリシーは、社会性を身に付け、責任ある行動ができるようにする。確かな学力の育成のため、地域活性化プロジェクト「めぶく」による探究的学習を中心に教科横断的な学習の機会を設ける。地域との連携の中で安全・健康に関する意識を高め、生涯にわたって自らの生命を大切にする姿勢を身に付ける。進学プラン「さ霧晴れて」の基、主体的で計画的な学習指導を行い、自己有用感を育むとなっています。

生徒募集方針であるアドミッション・ポリシーは、将来リーダーとなりうる資質を持ち、部活動や特別活動を通して豊かな人間性を身に付け、高い目標に向かって努力できる生徒。高い理想と明確な目標を持ち、その実現に向けて、学習活動に積極的かつ継続的に取り組める生徒となっており、入試の要項にも記載されています。

今、述べたスクールポリシーを基に、本校では「主体的に学ぶ力」、「探究する力」、「切り拓く力・挑戦する力」の3つの力を、しっかりと育成し「やりたいことが見つけられる市立前橋高校」にしていきたいと考えています。

ここからは現在の取組をいくつか紹介させていただきます。

主体的に学ぶ力の育成のために、ICTを活用した学びの充実を行っています。写真は、ICT機器、クロームブック等を利用し、授業を展開している様子です。生徒の意欲を高める授業を行っています。この写真は、スタディアアプリを利用して個別最適化された学習を行うため、全体で利用に関する講習会を行っている模様です。授業以外の学習活動の補助的なツールとして役立てています。視覚で感じる授業展開をふんだんに取り入れて、興味関心を喚起します。課題としては、教える教員側のスキルアップ、これは必須になります。その他では、クロームブックなどの端末の更新時の対応や通信環境の整備等が挙げられます。

次に、個の学びの充実を図り、個人の特性を生かした進路選択ができるように、本校では2年次より5つのコースを設定して学習活動を行っています。総合コースは、部活動で活躍し、その実績を生かして大学に進学したい生徒やスポーツトレーナーや指導者を目指す生徒が多く選択しています。スポーツセミナー、トレーニング論、生涯スポーツ、栄養学セミナーなど、他の学校では見られない特色ある科目を学習することができます。文系コースは、国語、英語、社会科などの文系科目を多く学習でき、理系コースは、理科、数学などの理数系の科目を多く選択することができます。文系コースでは、保育系への進学希望者に合わせて、保育セミナーや音楽・美術を選択することもできます。理系コースでは、理学部・工学部への進学希望者に合わせて数学Ⅲ・数学Cや物理、医療看護系進学希望者に合わせて生物を選択することができます。文理系コースは、1クラスの中に文系コースと理系コースがあり、国公立大学や難関私立大学への進学を希望する生徒に向けた、進学に特化した授業を展開するコースです。それぞれのコースで少人数授業を実施し、きめ細かな授業を展開しています。朝学習、主に朝読書を実施することで思考を深めたり、土曜補習や夏と冬に実施している長期休業中の補習を行うことで個の学びの充実を図っています。

続いて「探究する力」の育成です。本校で取り組んでいる特色ある取組について説明します。本校では、総合的な探究の時間を使って、前橋市と連携した探究活動「めぶく」を行っています。1年生では、まちなかリサーチや企業訪問などを通して、前橋市の活性化のためにできることを見つけます。2年生では、前橋市高校生模擬議会や模擬市長選挙を通して、前橋市の活性化のためにできることを企画し、提案します。前橋駅北口のアクエル前橋にある高校生学習室は、高校生模擬議会での本校生徒の提案によって実現したものです。3年生では、1・2年時の体験を自分の進路に結び付け、身に付けた力を生かして進路実現につなげます。3年間を通した探究学習で、問題解決能力や表現力・コミュニケーション能力を磨きます。

それでは、実際どんなことをしているか写真で紹介します。これは、1年次に行っているまちなかリサーチの様子です。前橋市内のお店を訪問して、商売の内容や問題点を聞いています。

こちらは、動画になります。中央アーケードの「パーラーレストランモモヤ」のインタビューになります。まちなか活性化のヒントを得るため話を聞いています。

こちらは、中央アーケード入り口にある「だんごの美好」に話を聞いています。商売して楽しいのは、人との出会いと言っています。こんな感じで、まちなかの人と触れ合って、リサーチを行っています。

前橋市議会にもご協力をいただき、模擬議会、本会議前に市議さんに来ていただき、課題提起・提案等のやり方を教わります。細かく教えて

いただけるので、生徒は真剣に聞いています。

模擬議会、本会議当日の様子です。山本市長さん、吉川教育長さん、前橋市、前橋市議会に大変お世話になり、生徒は得難い経験ができたと思います。

模擬市長選の様子です。生徒が市長選に立候補し、それぞれ政策を発表しているところです。前橋市のお店でポイントを貯められる提案をしています。自分のマニフェストをきちんと一人一人が話しています。実際、投票も行い、開票も自分たちで経験しました。

続いてですが、探究力を高めるため、もうひとつ重要なのが「グローバル教育の充実」です。グローバル教育の充実を図るため生徒に様々な体験をさせています。コロナ前まで、前橋市より補助金をいただき実施していたオーストラリア研修の様子です。コロナの影響でここ数年は実施できていませんが、令和6年度より行先の検討などを行い、英語圏に関わらず、アジア圏なども視野に入れて再開できればと思っています。残念ながら、今年度は海外研修が実施できないので、1年生を全員対象に「English Day」という1日中英語漬けの日を作って、実施することとなりました。

イングリッシュキャンプの様子です。JICAと連携し、県内の外国人留学生・専門学校生と交流しています。昨年度は、赤城青少年交流の家で、SDGsの目標達成に向けて、どのようにすれば目標達成ができるか話し合ったり、お互い協力し合うことの大切さを学んだり、アクティビティ、いわゆる自然体験的なことを楽しみ、交流を図りました。

こちらは、JICAと連携し、本校、農大二高、GKAの生徒さんたちと合同で、連携プロジェクトを行っています。地域活性化等の提案を行い発表しています。

令和2年度に実施した南スーダンとの交流です。今年度は、ザスパで受け入れた2名の高校生と交流実施予定です。特に何か行事をすることではなく、普段の学校生活を体験してもらう予定です。体育の授業や色々な授業を行い、交流を図ります。これ以外にも、国際理解サークルなどは様々な交流活動を行っています。

現在、修学旅行の行先は沖縄が主流となっています。本校も今年度、来年度は沖縄の予定ですが、生徒全員にグローバル教育を行うのであれば、今後は、修学旅行などを海外にシフトして行うのがよいのではと考えます。多様性を学び、主体的、創造的な人材育成には、このような体験が重要になると思います。先に述べたいくつかの活動は、必ずしも生徒全員が体験できるわけではないので、生徒全員が体験できるように、実現したいと思っています。旅行先は、今後検討していきたいと思ます。

3つ目の力「切り拓く力・挑戦する力」は、社会とつながる学びの中で育成していけたらと思っています。キャリア教育、特にインターンシ

ップは、コロナ禍で活動が縮小してしまいましたが、1年生からしっかりと行い、進学意欲や勤労意欲を喚起できればと思っています。思っているのは、しっかり前橋市内でインターンシップを行い、市前の卒業生が前橋市に戻ってきて、前橋市に就職させるというMターンです。地元前橋に帰って就職し貢献ができれば、前橋市にとって良いことで、今後展開していきたいと思います。商工会議所、市役所、地元の大学と連携して生徒の意欲を高めるために、インターンシップをしたいと考えています。大学の先生や企業の方々をキャリアアドバイザーとして招聘し、職員や生徒にアドバイスをいただくことも視野に入れていきます。

次に、部活動・サークル活動の充実・活性化です。市立前橋には、運動部が16、文化部・サークルが合わせて11あり、多くの生徒が日々、部活動に励んでいます。

ここにある部活動の活性化はもちろん、ここにはない多様なスポーツ、芸術活動、学習活動を積極的にやりたい生徒を育てたいと思っています。現在、部活動ではないですが、ボウリングで日本一の生徒がいます。そういった分野で活躍している生徒もいますので、多様な生徒を育ててみたいと思います。本校部活動にはない分野、例えば、スポーツクライミング、トランポリン、女子硬式野球、音楽活動、芸術活動、芸能活動等に秀でた生徒を支援していくのもよいのではないかなと思っています。より専門的な指導を提供するため、プロスポーツチーム、地域、大学と連携を行うことも考えています。目指すのは、市長さんがおっしゃっていた市立船橋や吹奏楽の習志野といったところだと思います。ハードルはかなり高いかもしれませんが、ぜひ実現したいと思います。

最後にまとめになります。今後の展望・課題を取り上げたいと思います。さらなる魅力化・特色化を行うには、独自のイチマエ色を出していくことが大切になります。

1番として挙げる「県立高校との差別化」は、魅力化・特色化のためには必要不可欠であると思います。

30～35人学級の設置は、高崎経済大学附属高ではすでに実施しています。学科の改編によるコースの充実では、できれば作りたいと思っていますのですが、学科は特進クラスやスポーツ・文化活動・芸能活動に特化したクラスの設置も視野に入れていければと思います。

次に独自の入試制度による多様な生徒の受け入れです。入試制度については、現在、県の入試制度に準じて行っています。特色を出すのであれば、こういった入試制度についても、後でお示しする先進校をよく研究し、例えば、県外生徒受入や一芸に秀でた生徒のための制度などができればと思います。実際、やっている市立の高校もあります。

インターンシップは、先ほどお話ししましたが「まちなかりサーチ」がその位置付けになっています。前橋の優良企業にお願いしてインターンシップを実施することで、生徒が前橋市にはこんな良い企業があり、

その企業に就職したいという思いを持ってもらいたいです。学習意欲が湧いたり、前橋市に帰ってきて就職したいという感情が出てくると思います。そのために、前橋市の優良企業をたくさん見せて、そこの方々の色んな話を聞き、企業の方から何故この職業に就いたのか、就くためにはどのような勉強をしたのかまで話を引き出せれば、生徒にとって、ものすごい刺激になると思います。そういったことを実現していきたいと思います。

部活動の活躍は、学校に活性化をもたらします。生徒の母校愛を育む一つの原動力にもなります。市民から愛される・誇れる学校づくりには、必要な要素となるのではないのでしょうか。前橋育英のサッカーが、市民から愛されています。やっぱり全国区の部活動を前橋市民は応援していき、市前にも、そういう部活動を持っていきたいなと思います。

進学実績の向上、目標、公立50名とありますが、次の資料をご覧ください。これは卒業生の進路状況になります。年々、四年制大学への進学が増加しており、令和4年度は163名うち、国公立大合格は15名でした。就職は、前橋市役所、群馬県警などの公務員や県内民間企業などです。国公立を見ると、令和4年度は、群大、前橋工科大、高経大、健科大などの県内が主となっています。過去3年間では、筑波、広島、信州など県外の国公立大学や上智、立教、中央、法政大学等私立大学合格などの実績がありました。進学実績を見ていると、必ずしもこれがすべてではありませんが、国公立の合格率が年々と下がっています。最近では、前橋地区の県立普通高校では、特に前橋南高校、前橋東高校の国公立の合格者が増加しています。それらの高校は、進学実績に比例して受験人数も増加しています。前橋南高校では、かなり倍率が高いです。中学生とはいえ、先の出口を見通して高校選びをしているのは明白です。国公立がすべてではありませんが、受験者を確保するためには重要な要素になってくると思います。しっかり有効な進学指導をして、目標として50名程度の国公立合格者が出るように、様々な面を改革していきたいと思います。

2番目は、先進校をモデルに学ぶということです。同じ市立高校で、実績を上げている県外の高校に目を向けて、魅力化・特色化のために、何をすべきかを学んでいかないと独自のイチマエ色は出ないと思っています。

先ほどから話に出ている市立船橋高校や市立習志野高校です。この2校は、スポーツでかなり活躍している高校です。ただ市立船橋高校は、スポーツだけでなく、進学も実績をあげています。色んな学科やコースを設置していて、スポーツ選手を獲得して、さらに勉強する子も獲得しているような高校です。

盛岡市立高校は文武両道で、多様な生徒を受け入れています。特別入試制度を行い県外の生徒を受け入れています。一芸入試等で、特色のあ

る子についても獲得できるように入試制度を作っています。

市立浜松高校は、学力が県内トップクラスであり、部活動では運動・文化部併せて200名以上が全国大会に出場しています。

中高一貫校を研究するのであれば、さいたま市立浦和高校が、実績があります。

まとめとなりますが、このような高校を積極的に視察し、研究・検討して、色んなヒントを得ながら、イチマエ独自の魅力化・特色化への取組を進めたいと考えます。ゆっくりやるのではなくスピード感を持ってやり、1年でも2年でも早くこういう学校に近づけるような形で何か出来ればと考えます。

視察に関しては、学校関係者だけでなく、教育委員会の方々にもご同行いただき、こういう色んな県の高校を視察していただけると、どんなことをすれば良いかが見えてくるのではないかと思います。

最後にPRになりますが、市立前橋は、ホームページ・YouTube・公式ツイッターを通して、様々な情報を発信しています。興味のある方は、是非ご覧ください。

以上、説明させていただきました。この後、ご意見、ご指摘をいただければ助かりますのでよろしくお願いいたします。

以上で終わります。ご清聴ありがとうございました。

教 育 長

高野校長先生、ありがとうございました。動画や写真などから市前の高校生の現状が見えましたし、お話の中では市前の改革、新しい市前を作っていくとする高野校長先生の夢もたくさん語っていただきました。高野校長先生の説明に対しまして、ご質問または感想でもよいのですがお話いただきたいと思います。畠山委員からお願いします。

畠 山 委 員

高野校長先生、熱い思いを込めて、お話いただきましてありがとうございました。私の方からは、2つほどご質問させていただきたいと思います。まず1点目は、先ほど最後にお話しいただいた先進校をモデルにということいくつかご紹介いただきました。これから1・2年かけてそちらを視察したり研究したりして、方向性を決めていくのかなと思います。今時点では色んな様々な方法があったと思うので、どういう方向性というのが、ある程度見えてきているのか、部活動中心なのか、文武両道なのか、様々な学校があったと思いますが、どんなイメージを持たれているのか、お聞きしたいです。

2点目は、卒業生のお話ですが、前橋にMターンで就職するというお話でしたが、アドミッションポリシーの中に将来リーダーとなりうる資質を持ちというので、卒業生がどんなリーダーとして、前橋で成功していくかということを経験者の皆さんに紹介したりとか、そういう機会があったりすると、こういうリーダーになりたいとイメージも持ちやす

くなるのではないかと思います。そういった交流があるのか、この2点についてお伺いしたいと思います。

前橋高等学校校長

先進校をモデルにということですが、最終形は、どっちも欲しがりなので部活動も勉強もしっかりできる学校にしたいなと思います。先ほど市立船橋の話をしました。サッカー部が強だけでなく、バレーボール部も強いし、陸上も強いし、様々なところが強いです。プラス勉強も出来て、進学率も高いです。理想的として、最終的には市立船橋なのかなと思いますが、そこは市立船橋だけにこだわらないで、勉強が出来る学校というのはどういう取組をしているのか、カリキュラムを組んでいるのかという、そういったことも考えながら方向性を見つけていきたいと思っています。時間がかかるとは思いますが進めていきたいと思いません。

卒業生を活用した講演会などについては、進路の中でやっています。リーダーとなると、同窓会長に岡議員もいるので、岡議員に話してもらいたいなと思います。そういった方々が沢山いらっしゃいますので、機会を設けて、生徒に色んな話をしてもらおうと、非常に生徒はやる気を持つのかなと思います。

畠山委員

ありがとうございました。

教育長

いずれは市立船橋を目指して、文武はしっかり両立出来るのだというお話がありました。奈良委員がいつもおっしゃっていることかなと思いますが、感想と高野校長先生に何かあればお願いします。

奈良委員

高野校長先生、ありがとうございました。普段の市立前橋の生徒が、沢山のことを活動しているということを知ることができました。市立前橋の生徒の特色とすると、一般的な生徒が入学して、真面目に学生生活を送り、それぞれの進路に向かっていくのが見え、やや活動に対しては受け身かなというのを最近感じています。その中で、高野校長先生が後半で述べた部分で、非常に積極的に学校改革を進めていく中で、少人数学級をどのように考えていくのか、30～35人ということではなく、人数・教室の数・先生方の持ち時間数が増えるか、人数が必要なのか、少人数を実施するにあたっての先生の考えや課題を教えてください。個性を打ち出していくということで、市立盛岡高校で一芸入試を行っているそうですが、具体的にどんな入試を行っているのか教えてください。来年から高校入試改革がありますので、高野校長先生の試案でよいので、こんな入試ができたらいいなと思っていることがありましたら教えてください。出来る協力はしていきたいなと思います。もう1点は、これを実現するために、指導者の資質、先生方の力

量というのが大変重要になります。学習にしても国公立の入学者数を増やしたい、部活にしても実績を上げたいと、先生の覚悟についてどのような考えがあるのかを教えてくださいたいです。

前橋高等学校校長

1つ目の少人数について、先ほどもお話させていただきました。多様な子を育てたいという観点で実現はしていませんが、例えば、芸術活動・スポーツ活動・勉強をやりたい子、探究をやりたい子、そういう子がいてもよいと思います。それには、特化した教育を与えてやるのがよいのかなと思います。奈良委員がお話したとおり、少人数クラスの編成については色々問題があります。定数というのがあり、定数は、なかなか打ち破れないです。今は40人学級が主流です。増やしても、今の市立前橋の学校のキャパを考えれば、昔は7クラスでしたので、今は6クラスで1学年1クラス分しか教室が空いていないです。少人数をしようと思っても、1クラス分しか増やせないと思っています。教員の確保について、高崎経済大学附属高校については、市で採用している先生方がいて、あとは地公臨や非常勤の先生を多く雇っています。そういうところから少人数をしても、色んなコースを作ってもカバーできています。将来的に色んな多様性を考えて、色んなことをやりたい生徒に教育を与えるのであれば、高崎経済大学附属高校と方向的には同じなのかなと思います。出来れば、市で教員を採用してもらい、非常勤と地公臨を今以上に増やしてもらって、子どもたちを指導してあげたいという気持ちがあります。制度的なことなので色々協議が必要かなと思います。

奈良委員

回答をいただいているのにすみません。高崎経済大学附属高校は市採用ということで、市で独自に市の教員を採用しているということですか。

前橋高等学校校長

すべてはないですが、何人かは市で採用している先生がいます。ずっと高崎経済大学附属高校にいる先生がいます。サッカーの方もそうですし、柔道の方もそうです。

奈良委員

中学校との交流ではなくてですか。

前橋高等学校校長

はっきりとは分かりませんので、確認したいと思います。
続いて2つ目の質問の件です。今年、群馬県は入試を一本化しました。それとは反対している提案になります。盛岡市立については、特別進学コース、普通科の普通コースがあります。推薦入学者選抜は、学業でとる子、特別進学でとる子、スポーツでとる子、一芸でとる子となっています。一芸については、特にスポーツとは限らず、個人の特性を生かした部分で、そういった子をとっています。詳しい判定基準までは、

なかなか入手できませんので、詳しく知るには視察に行かなければならないです。特別推薦の一般選抜は群馬県では一本化されましたが、盛岡市立では特別推薦の推薦日の日程を作っています。群馬県がしていることと相反していますが、これはこれで色が出ているなどと思います。自分たちで必要な学業・スポーツ・色んなことをしている子を取れるような入試システムを構築しているなどと思っています。それでいて、東北地方ではスポーツで成果が出ていて、学業でも成果が出ています。見本にしたい高校です。

3番目の質問です。先生の力量は、こういうことを語る前に一番ベーシックなところですか。それなくして、こういった夢は語れないと思います。赴任して3か月ですが、市立前橋は、若い先生が多くてやる気のある先生が多い。ただ市立前橋で頑張っても、年を取ると異動になってしまいます。若い人を育てて、それを繋げて次の人が来て同じような指導が出来るような先生方を作っていく、あるいは学校の教員組織を作っていくことが大切なのかなと思います。今までだと、奈良委員にこんな事を言うのは失礼ですが、奈良委員も同じような壁にぶつかったと思うのですが、奈良委員が一生懸命に先生方に指導して、先生方が一丸となっていたとしても、異動して次の人が入ってくると、やってきた事が段々と薄れてしまい、プラスになることが少ないのかなと思います。学習面で生徒に教える技量はもちろんです。生徒指導・進路指導の技量、先生と生徒の調整が出来るような技量を持つ先生を一人でも多く作っていくことが緊急の課題であります。それに向けて徐々に頑張っているところです。

奈良委員 ありがとうございました。

教 育 長 ありがとうございました。感想、質問あるいは提案、こんなことをやったらよいのではないかということを含めてお話いただくと良いと思います。渡辺委員さん、お願いします。

渡 辺 委 員 校長先生、プレゼンありがとうございました。お聞きしていて、ワクワクするような内容だったと感じました。多様な内容が含まれていましたが、更なる魅力化・特色化というところに、県外の生徒を受け入れるということがありました。県立高校の例ではありますが、尾瀬高校は自然環境科があって、県外からの生徒がいます。もし、県外からの生徒を受け入れるとしたら、どんな魅力で県外から来てもらおうと考えていらっしゃいますか。

前橋高等学校校長 本当は、部活動を強くしたり、勉強が出来るようになって、魅力が先にくると、生徒が来ればという風に思っているのですが、それには時間が

かかります。体育をしたり、スポーツをしたりしている人に言っていますが、市前で私が見るからぜひ来て欲しい、そういう高校を作りたいというパッションを前面に出していきたいです。「うちの高校は、こんな環境があって人工芝生がありこんな風な合宿所もあるよ」「生徒たちはこういう勉強が出来るよ」「スポーツ系の生徒が多いクラスでこういうことが学べるよ」と、そういうことを魅力にしたいです。先生たちの情熱で、どうやって教えていくかは、非常に不確かなところですが、始まりはこんなところだと思います。段々と定着してきて、前橋育英高校さんみたいに強さが安定すれば、自ずと生徒は集まって来ます。まだそこまでのレベルではないのです。取り急ぎ、先生方の情熱を育てなければいけない、そういうところから始めたいと思います。

渡辺委員 ありがとうございます。先ほどのお話の中でも、奈良委員と一緒に高校を作ろうという話で、一緒に未来を作っていこうよというのは、スカウトされる生徒の方も未来に希望を抱けて、行ってみようと思えるのではないかと思います。一段階目のやり方として良いアイデアだと感じました。

教育長 ありがとうございます。木村委員さん、どうですか。

木村委員 質問ということでお聞きしたいと思います。私も保護者として、こういう魅力的な学校があるのだと、すごく分かりやすく説明していただいて知りました。こういう選択肢が市内にあるということは、ありがたいと思いました。特に探究活動で前橋市の市議会を使っているというのが、非常に良いなと思いました。自分の子どもにもやってもらいたいなと感じました。探求的な活動で将来やりたいことを見つけたりすることにも繋がり、とても面白い活動だと思いました。これは、活動することで、授業日数がとても必要ではないのかなと感じました。座学の授業も疎かにしたくないとなりますと、貴重な授業の時間を確保しつつバランスは、どのように工夫されているのかお聞きしたいです。

前橋高等学校校長 探究活動については、カリキュラムが週1回に入っていて、探求ですので、生徒が自ら進んで研究したことになります。市前で一番良い点は、前橋市や前橋市議会がバックアップしてくれる中やっています。そういったことを経験させてもらうことで、自分たちの課題があるか提案できるかというのを更に深く探求できるシステムになっています。これは、非常にありがたいと思っています。探求ですので、実際に全員でミーティングする時間が週1回あったら、後は自分たちで研究したりします。探求だけしているのではなくて、授業時間はしっかり確保しつつ、生徒には、しっかり探求の時間をさせているような現状となっていま

す。この探求は、生徒には非常に大事だと思います。特にこの3年間はコロナで、生徒が体験して、何かを感じてやるという機会がほとんどなかったと思います。市前でやっているこの探求活動は、生徒が色々将来を考えたり、自分たちがこれから何をしたいか考えさせるために、非常に良い体験になっています。これは、継続していきたいと思っています。形骸化が非常に心配です。インターンシップで違った形の探求として、前橋市の企業に話を聞いたり、進学校として大学進学を考えるのであれば、文系や理系に分けたような探求があっても良いと思います。今は、前橋市と共に歩く探求の形になっていますが、理系の子は理系の探求があっても良いと思います。前橋市内の企業に協力してもらい出来たらいいなと考えています。発展してやっていかないと形骸化してしまうので、ぜひそういう取り組みをやっていきたいと思います。

奈良委員 もう1点質問して良いですか。先ほど5つのコースがありました。今後、変えていくことも考えているとお話でしたが、どのような形に変えていくのでしょうか。

前橋高等学校校長 例えば、変え方の一つとして、一芸を持っている生徒や特進コースにして、あの子たちは、自分に合った少人数学級のクラスを作っていきたいなと思っています。スポーツのクラスは1クラスありますが、きちんと明記してあげて、スポーツコース、特進コース、難関大学目指すコース、そういったような振り分けをしていきたいです。位置付けをはっきりさせたいと思います。生徒には、なるべく1年から意識をさせて、1年でコースを選択できるように進路指導していく展開が良いのかなと思います。1年生からしっかりと意識付けが出来るような進路指導を考えているところです。それに伴いコースもしっかり決めていきたいと考えています。

奈良委員 ありがとうございます。

教育長 これだけは提案しておきたいというようなことは、ありますか。

畠山委員 提案というところで、私はカウンセリングが専門なので、そういう視点からお話したいと思います。最近、国もあげて、孤独・孤立というテーマが必要なテーマになっています。地域活性化で言うと街中でリサーチしてフィードバックするということは、非常に良い活動です。その中の可能性としてですが、地域の中には、たくさんの孤立・孤独を抱えている方々がいて、若い子たちもたくさんいます。非常に難しい課題だと思います。SDGsの話もありましたが、若い子どもたちの中には小学生もいて、お兄さんお姉さんである高校生たちがどういう風に関わって

いけるだろうか、そういうことも街中リサーチの中に組み込んでいくことが出来たら、それは素晴らしいなと思います。多くの孤立や孤独を抱えている子どもたちが、主体的に学ぶという主体性を大切にされないと、孤立・孤独になっていきます。自分が主体性を大切にされたという子どもたちが、それを大切にされなかった子どもたちに対して手を差し伸べたり、主体性を大切にしておける取り組みが、自分の主体性を育んでいくことになります。ぜひそんな取り組みもやっていただくと、私の立場からするとありがたいなと思いました。

教 育 長

ありがとうございました。先日、市前の学食に行って、お昼をいただきました。その横に座った子が、どこから来ているのかと聞いたら市外でした。何で市前を選んだのかと聞いたら、探求がしたかったと言っていました。この市前のアピール力が、県内の色々な所に広がっているのかなと思いました。市前に行く度に、高野校長先生のエネルギッシュな部分が、色々な所に波及していて、市前の熱量がどんどん上がっているような気がします。大変丁寧な説明をしていただき、また、委員の皆さまにも色々なご質問を受け、提案もしていただきました。これからも市前と一緒に、応援していきたいなと思っております。あっという間に時間がきておりますが、指導担当次長さん、皆さんの話を聞いていかがでしたでしょうか。

指導担当次長

今日、高野校長先生が熱量を持ってお話してくださいました。自分がすごく感じたのは、皆さんが質問することに対して、高野校長先生は本当に更に熱量を持って受け答えていました。高野校長先生の中にすごく市前を魅力ある前橋市の唯一の高等学校として魅力のある学校にしていきたいというものを強く持っていると感じました。皆さんがたくさん質問しても、そこで途切れることなく、私はこう考えていますと、泉のように出てくるというところに素晴らしさを感じました。本当に市立前橋高校が、更に魅力化になっていくと思いますので、教育委員会もしっかりと支えていきたいと思います。本当にありがとうございました。

教 育 長

ありがとうございました。山本市長さんには、このような総合教育会議の機会を与えてくださりまして本当にありがとうございます。大変良い機会になりました。色々な事を考えることができました。最後に市長さんから今回の総合教育会議にあたって、お願いします。

市 長

面白い人が来たなとワクワクしました。とにかくどんどんやってください。引っ張ってくれる先生が5人もいれば、すぐできると思います。そういう先生を引っ張ってくるということも大切かもしれないです。大出学園は、全国で2校しかない私立の障がい者の中・高全寮制の学校で

す。前橋の子はいなく、市外から来ています。大出学園が、父兄や生徒にとって救いの場所になっています。女子野球をやりたいけど、埼玉まで通えない子どもにとっては、救いの場所になります。そういう場所を高野校長先生の熱量で作ることで、こちらは、大慌てでグラウンドを作らなければいけない、寮をつくらなければいけないという風になります。後ろにいらっしゃる議員さんたちも大慌てになります。楽しく慌てさせられるような高野校長先生のスピードでしてください。高野校長先生が2年か3年で異動してしまうのではそのストーリーは出来ないのです、それは覚悟を持って、やってください。よろしくお願いします。

教 育 長 市長さんがおっしゃるように、本当にやりたいことが見つけられる市前を目指していますので、色々な方々の応援をいただきたいなと思っております。皆さまありがとうございました。

教 育 次 長 令和5年度第1回総合教育会議を閉会いたします。ありがとうございました。

以上で、本日全ての日程を終了といたします。ありがとうございました。

(午後4時34分)